

ご自身も石川県立工業から秋田高校総体に石川県代表として出場し、現在金沢市バレーボール協会会長として日々活動されている大村昭男さんにお話を伺いました。

【金沢市バレーボール協会・大村昭男（おおむらあきお）会長】

県立工業高校在学時、秋田高校総体出場。その後現在に至るまでバレーボールに携わってこられました。

①高校時代の思い出は？

県立工業2年生の時に初めて選手として1959年の秋田高校総体に出場することができました。当時のキャプテン・井上寛司選手のスピード感あふれるサーブをなんとか自分のものにしようと練習に励んだところ、右肘を痛めてしまいました。負けずに左手スパイクを練習したことで、左右両手でスパイクを打つことができるようになり、その後のバレーボール人生の財産になりました。



②インターハイの思い出は？

秋田高校総体では初戦で優勝候補の兵庫県・姫路南高校と対戦し、1セット目は21対2と一方的な試合となりました。2セット目は皆で作戦を練り、いつも練習していた低く速いサーブを打つこと、そして自分たちが得意としている攻撃を行うことを心掛け、私は猛練習した両手スパイクに専念しました。健闘したものの、残念ながら21対11と敗れてしまい、負けたことの悔しさと、自分たちの持っている力を出し切ったという、なんとも複雑な心境になったことを覚えています。相手チームのジャンプトスによる平行スパイクを目の当たりにし、全国のレベルの高さを思い知りましたが、後に相手チームは夜10時まで猛練習を行っていたと知り、日々の練習の成果だと納得しました。

③バレーボールに関する思い出は？

この大会を機に、負けた悔しさを後輩に託す思いや、全国大会に出場するという貴重な体験を後輩に経験してもらいたいと考え、その頃はまだ浸透していなかったOB会を立ち上げ、大会の応援や、全国大会出場への寄付等による支援体制をつくりました。その後県立工業高校は1980年高知高校総体で全国優勝を果たしたほか、今回で16年連続30回目のインターハイ連続出場と、後輩たちの活躍を嬉しく思っています。

また、高校卒業後に金沢美術工芸大学のバレー部に入部し、1年生から三美大学生体育交歓祭に出場して悲願の初優勝を果たし、その後3連覇を達成し、後輩たちにうまくバトンを引き継ぐことができました。

④選手へのメッセージ

地元開催インターハイのプレッシャーに負けず、日頃の成果を発揮し、悔いの残らない試合をしてほしいと応援しています。そしてバレーボールを通じてチームの皆や監督、応援してくれる方々との絆を深めてほしいと思っています。

⑤会長にとってバレーボールとは

バレーボールは体と心を鍛えてくれる生涯スポーツだと思っています。瞬間的な判断力とチームワークが必要であり、とっさの判断でボールをコントロールし、チームでつかんだ勝利は格別です。バレーボールを通じて培ったチームワーク力やフェアプレー精神は人間形成に役立つと信じています。